

仁王

それぞれ 3 メートルを超える筋肉質な赤い金剛力士が、仁王門の両脇に立ち、妻沼聖天山歓喜院を守っています。これらは仁王像で、起こる神様、仏教における守護神です。仁王は 2 体で描かれることが多い存在です。右側の口が開いた仁王像を、誕生の瞬間に発する「あ」の音から阿形（あぎょう）像といいます。左側の口を閉じた仁王像を、死の直前に発する「うん」の音から吽形（うんぎょう）像といいます。これら 2 体が一對になって、人生のサイクルを表しています。

仁王像は、1658 年に神奈川県鎌倉市の名工が作ったものです。熊谷市の有形文化財です。